

私の協力隊生活と成果

新年あけましておめでとうございます。令和4年4月に地域おこし協力隊として着任しました矢部祐哉です。着任して無事に3年目を迎え、今年の3月末に卒隊予定ですので、改めて自己紹介をさせていただきます。

私は福島県会津若松市に生まれ、高校を卒業後は地元の企業に就職しました。一人暮らしに強い憧れがあったため、思い切って親元を離れ縁もゆかりもない北海道へ移り住みました。約1年ほど住み、北海道の生活に慣れたところへ会津美里町に地域おこし協力隊の募集が出ていることを知人に教えてもらい、「これは会津に帰れるチャンスだ!」と思い、応募して今に至ります。

会津美里町に移住してからは久しぶりの会津に帰ってきたという感覚と、1年しか経っていないのにどこか懐かしいという感覚になりました。地域おこし協力隊として新たなスタートが始まることに楽しみ半分、不安半分といった気持ちでした。

鳥獣対策専門員としての主な活動は、町民の方からの通報を受けて現地へ行き、当事者と対策に関する助言をさせていただいていました。また、町では被害を軽減するための電気柵等の購入に対する補助事業があるため、その事務作業や広報紙への対策の周知なども活動として行っていました。着任当初は対策に関するノウハウもなければ、集落の場所もわからなかったので、役場の鳥獣担当の方に町内を案内していただいたり、鳥獣の痕跡の特徴や役場職員として従事することの考え方など様々な角度から親切に教えていただきました。そのおかげで、今では集落に迷わずに向かうこともできるようになりましたし、自信を持って町民の方々へ鳥獣被害対策のアドバイスができるようになりました。



◀集落環境診断の様子

私生活においては令和4年から狩猟の世界に足を踏み入れ、わな猟と銃猟免許を取得し地元の猟友会の方々に猟場へ連れて行っていただきました。実際に私が狩猟に行き、自分という存在も自然の中で生きていると強く実感できるようになりました。また、獲った獲物を自分で処理して食べることを経験したことで、食事に対する意識がすごく変わりました。狩猟を通じて動物の命を奪っていると感じる分、生命に対する向き合い方が真摯になれたような感覚になりました。自分で獲った獲物を食べてみたいという気持ちで始めた狩猟ですが、食べるということに対して気づきを与えてくれたので、狩猟を始めて良かったと思っています。

会津美里町に私が何かを残せるような成果を出せたかはあまり自信はないですが、他の協力隊員や役場の方々などに関わって、自分自身の成長に大きく繋がった3年間であったと思っています。豊かな自然と四季の移り変わりを肌で感じることができる会津美里町でとても楽しい時間を過ごすことができました。卒隊まで残りわずかですが、私からの感謝の言葉を綴らせていただきました。



◀イノシシの足跡を追跡中



◀町の協力隊員とあやめ祭りに出展

今月の協力隊

鳥獣対策専門員

やべ ゆうや
矢部 祐哉

出身：福島県会津若松市
趣味：旅行

